＜東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞＞

「負担」ではなく「支援」に

西郷村立西郷第二中学校　３年　鈴木　心菜

「十パーセント！？」

去年の十月から消費税率が八パーセントから十パーセントに引き上げられた。一〇〇〇円の物を買ったら一一〇〇円、一〇〇〇〇円なら一一〇〇〇円、一〇〇〇〇〇円なら一万円も消費税を払わなければならない。百円ショップなんて、今では百円でなんて買えない。消費税が十パーセントになる前には、たくさんの消費者が買いだめや大型家電、家具を買う姿がニュースで流れた。

税金。何のためにこの税金は必要なのか。何のために消費税率を十パーセントに引き上げ、私たちの負担を増やしたのか。この作文を書くにあたって私は、この二つについてインターネットと租税教室で学んだことを通して考えることにした。

何のために税金が必要なのか。私は税金なんて必要ないと思っていた。何に使われているかわからないし、特に消費税率はどんどん上がって買いたい物の値段も上がるし。でももしも税金がなくなったらどうなるだろうか。調べてみて私ははっとした。自分の身近なところだと、税金の一部は私たちの学校の授業料や教科書、教室の机やいすなどに使われているのだ。中学生の一年の学費はおよそ百万円。ということは、もしも税金がなくなったら、私たちの中から学校に行きたくても行けなくなってしまう人が出てくる。みんなが平等に学ぶ権利がなくなってしまうのだ。

その他にも、警察や消防士、救急車を呼ぶ時、図書館などの公共施設や道路工事、ごみ処理など、たくさんの場面に税金が利用されていることがわかった。私の父は以前、大けがをして救急車で病院に運ばれたことがある。あの時すぐに応急処置をしてもらい、すぐ病院に行って助けてもらうことができたのは、たくさんの人のおかげと共に税金のおかげだったということがわかり、感謝の気持ちでいっぱいになった。

何のために消費税率を引き上げ、私たちの負担を増やしたのか。いや、増税は私た

ちの負担を増やすのではなく、私たちの「ため」にされたことがわかった。少子高齢化が進んだ影響で年金や医療などの社会保障を維持するための費用が足りなくなり、税率を八から十パーセントに引き上げたことがわかった。

　このようなことを考えると、私たちには税金が必要不可欠な存在である。もし税金がなくなり、様々な公共サービスが有料になったら、お金を持っている人だけが裕福に暮らすことができ、持っていない人は不便な生活を送らなければならない。そんな貧富の差がある世の中よりも、国民が支え合いながら、平等に、便利に生活を送ることのできる今の世の中の方がよっぽどいいと私は思う。私はこの機会を通して学べたことが増えた。税金は私たちの「負担」ではなく、私たちの「支援」なのだ。